

編集後記

▼県教育委員会は昨年「新潟県第六次総合教育計画」（いきいき新潟教育プラン）を策定しました。本年度県内一〇〇校でスタートした「いきいきスクール」運動はそのプランの一環です（残り一〇〇校も逐年で実施）。

「いきいきスクール」は、学校経営の改善、学力向上の推進、進学指導の充実等の課題を学校が選択し、それぞれのプロジェクトで進めるものとされています。しかし、いろいろと問題がありそうです。この運動で、果たして新潟県の学校（教育）が生き生きと再生するだろうか、検討してみたいと思いました。▼編集部の不手際で、本号の発行がまたまた遅れてしまいました。お詫びいたします。

（片岡 弘）

▼榎本栄次氏の「ひとりを追う教育」は、いまの管理教育への反発から「規則も校則も自由でいい」という論調に対する適切な批判になっており、学校の役割を改めて考えさせます。

▼岡野勉氏の「新教科書と子どもの学力」は、新指導要領が小学校に全面的に実施されて初

めての「一学期間の授業を通しての問題点や悩み、感想等」をもとに、算数教育の具体的な諸問題を分析しています。それは、岐阜教組が九月に調査したものです。新潟県では残念ながらこの種の調査がありません。

▼「ひろば」欄が、会員の交流に役立つように願っています。緩込みの愛読者カード（はがき）などをご利用ください。（吉田武雄）▼坂東克彦氏の連載「忘れえぬ人びと」は本誌で初めて発表される事がらもあり興味津々、次号が待たれます。

▼坂東氏は、三月三十一日の新潟水俣病判決の論文を執筆、掲載した「研究所通信」を新潟大学研究生・金静姫さんに届けました。「通信」は金静姫さんを通じて韓国の崔弁護士（民主社会の為の弁護士協会所属）に渡り、その後、同協会から日韓弁護士会の交流会での水俣病報告の要請がありました。

九月二十三日、初めて訪韓、三十日まで滞在。韓国の奈良・京都といわれる慶州で、「日本の水俣病事件と公害問題」の特別報告をしました（スライドも使用）。これが縁で韓国の法律家と親しくなりました。

十月、仕事でソウルに行き韓勝憲弁護士を紹介で、十二月に行われる大統領選挙の予定候補金泳三・金大中・鄭周永の三氏、東亜日

報（韓国の代表的新聞）編集長・洪仁根氏と懇談、記念写真も撮りました。

縁は異なるもの、「研究所通信」が取り持つ縁で、坂東副理事長が韓国で大歓迎されたという耳よりな話。

▼「研究所通信」（会報）は隔月発行、B5版十二ページ。時々的重要な事柄をお知らせします。「通信」に「いがたの教育情報」（機関誌、季刊）は会員宅に届けます。是非会員に加入、本県の教育・文化の貢献に力をお貸し下さい。（若月又次郎）

にいがたの教育情報 No. 33

1992年12月15日発行

編集・発行 にいがた県民教育研究所
発行人 長崎 明

新潟市東中通1-86 山崎ビル2F

〒951 電話(025)228-2924

振替口座・新潟4-12332

印刷所 (有)中央印刷さびず

本誌内容の無断転載を禁じます。